

「神戸市」

1) 現況

4市の中で最大の規模を持つ神戸市ですが、別紙のグラフで明らかなように、その一日給水量は、猛暑だった平成6年の跳ね上がりや、阪神大震災のあった平成7年の落ち込みはあるものの、この10年間、ほぼ一貫して漸減傾向にあると云えます。平成12年度の実績としましては

現有給水能力	900,000m ³	(内訳)	自己水源	20.0 万m ³
			県営水道	2.8
			阪神水道	67.2
一日最大給水量	648,000m ³			
(差)	252,000m ³			

となっており、水需要がピークの日においても現有給水能力の28%を余らせています。

2) 将来

将来の水需要について神戸市は、平成8年度策定の「第7回拡張工事」計画において予測を行っています。

完成年度	平成23年(2011年)
人口	170万人 (因みにH12年度:148万人)
一人一日最大給水量	530L(リットル)
一日最大給水量	$170万人 \times 530L = 901,000m^3$

つまり、平成23年度において90万m³/日の給水能力が必要としている訳ですが、前述のとおり、神戸市の現在の能力が正に90万m³あるのですから、仮にこの予測が正しいとしても、阪神水道に今以上の水量配分を求める必要は無いわけです。

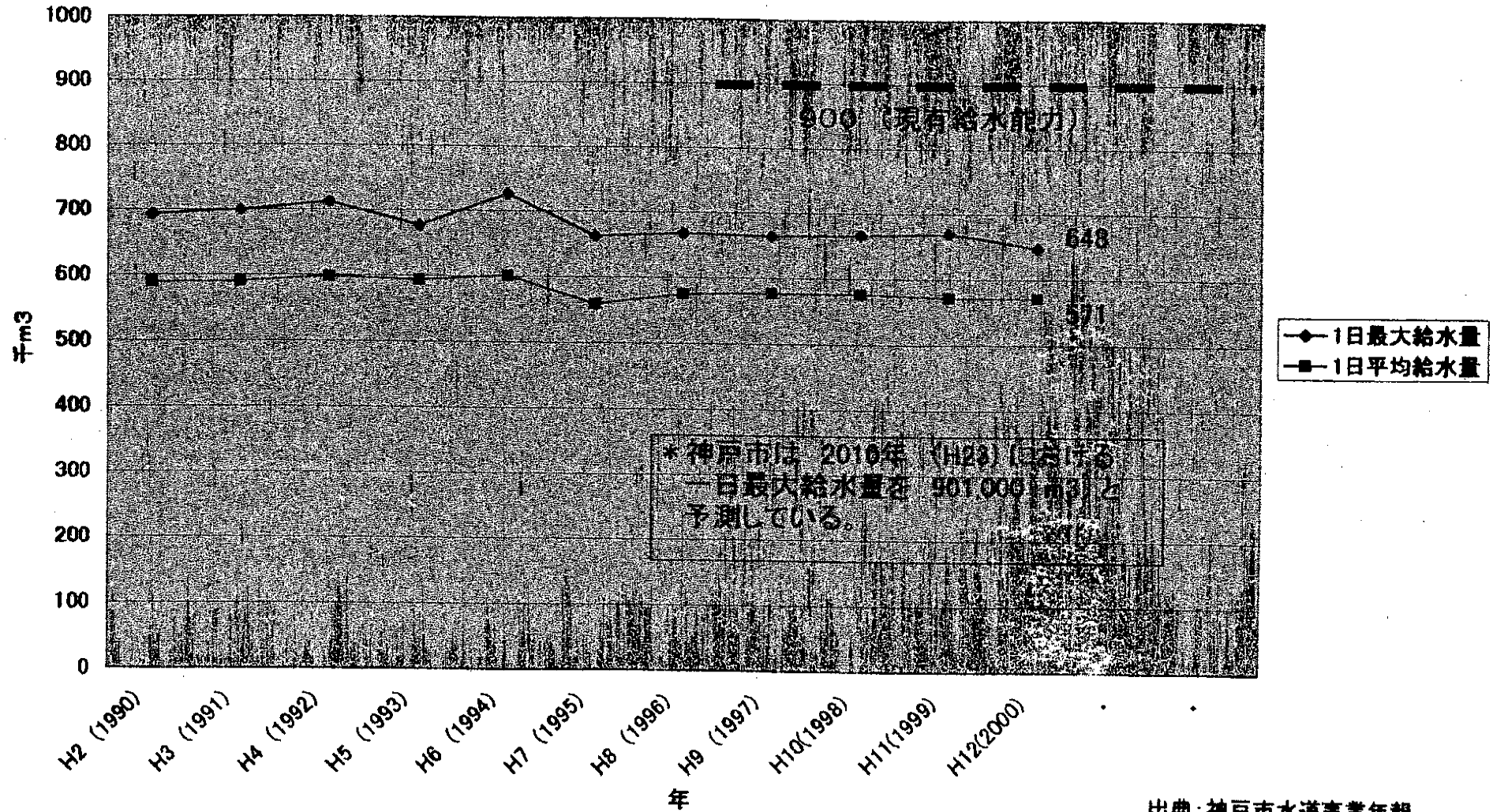
しかもこの予測にはかなりの“余裕”が見込まれています。人口170万人はともかくとして、「一人一日最大給水量:530L」です。

別紙グラフのとおり、神戸市の一人一日最大給水量はこの10年間、減少傾向にあり、平成12年度で435Lでしかありません。しかも神戸市の場合はトイレの水洗化がすでに100%近くに達しているため(99.2%)、今後「一人一日給水量」を押し上げる大きな要因が存在しないことからして、この「530L」は明らかに過大であり、

$$(530 - 435) L \times 170万人 = 161,500m^3$$

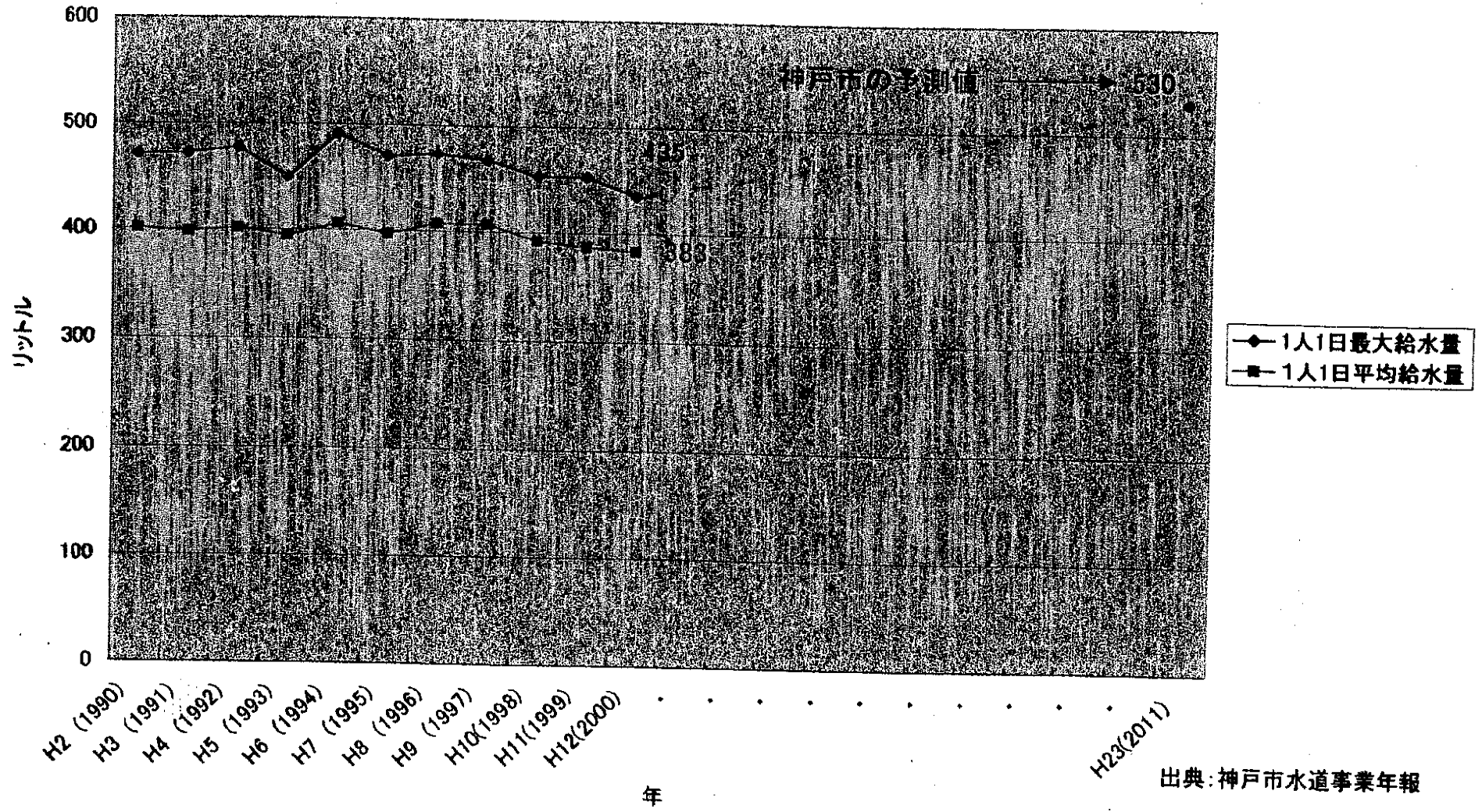
つまり16万m³ほどの余裕がこの予測において見込まれていることになります。従って神戸市の場合は、現有給水能力で将来的にも問題がないと云えます。

神戸市の一 日給水量と給水能力



出典: 神戸市水道事業年報

神戸市の一人一日給水量と予測値



出典:神戸市水道事業年報